

## 平成 26 年度町政懇談会議事録

- 1 日 時 平成 26 年 11 月 23 日（日）10：00～11：30
- 2 場 所 白河市立図書館 地域交流会議室（白河市）
- 3 出席者 伊澤町長、半澤副町長、武内総括参事、駒田復興推進課長、松本住民生活課長、猪狩産業建設課長、平岩秘書広報課長
- 4 町民出席者 46 人

### 5 概要

#### (1) 伊澤町長あいさつ

- ・町長就任（平成 25 年 3 月）以降の町の状況を説明する。
- ・平成 25 年 5 月、区域再編を実施。これに伴い賠償に差が無いようにした。
- ・平成 25 年 6 月、いわき事務所開所。平成 25 年 12 月に旧騎西高校の避難所住民が全員退所し、今年 3 月に埼玉県へ施設を返還した。
- ・平成 26 年 4 月より双葉町立幼稚園、小学校、中学校が当初 11 名で再開、2 学期よりいわき市錦町に完成した仮設校舎で授業を実施しており、現在 16 名となっている。11 月 8 日には学習発表会が開催された。
- ・11 月 21 日、22 日に双葉町津波被災地域復旧・復興事業計画（両竹・浜野地区復興計画）中間報告に伴う住民説明会を行った。
- ・復興公営住宅の今後の予定は、いわき市勿来酒井、白河、郡山、南相馬に設置予定。白河市には南湖公園近くの旧種畜牧場跡地になる。町民の要望が多い戸建て、2 戸一の住宅を予定している。交通の利便性については、バス路線が走っているので、それほどご不便をかけることはないと思う。
- ・11 月 7 日には、郡山市日和田で復興公営住宅鍵引き渡し式が行われ、11 月 15 日より八山田の復興公営住宅に双葉町民が入居開始。
- ・中間貯蔵施設の受入可否判断を町としてはしていない。まずは、地権者へ丁寧な説明を国に求めており、10 月 23 日に大熊町長とともに環境大臣に要望を行った。

#### (2) 懇談会

- ① 「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」（双葉町復興推進委員会中間報告）について ※配付資料（概要版）により伊澤町長から説明

#### ② 懇談

##### (男性)

- ・長期ビジョンには安全性について全く記載されていない。廃炉等の問題を考えると困難ではないかと思う。国・東電は研究を続けていくと言っているが長い時間無理ではないか。自然災害はまたいつ起こるのかわからない。そのために安全性を基礎に考えなければならない。しっかりと検討してほしい。
- ・除染については、平地についてはどうにかなるかもしれないが、山林については、不可能ではないのか。どのように除染の対策をして復興を成し遂げていくのか考えることが大切ではないか。長期ビジョンに記載するべきではないか。
- ・現在の除染は無駄なお金をかけすぎている。安全対策をどのように講じるのか、し

っかりと考えていただきたい。

(伊澤町長)

- ・安全性については、概要版「帰還・復興に向けた考え方」に記載されている。津波被災地域については、防潮堤を T.P+7.2mと 1m嵩上げする。また、海岸から 200 mを防災林にする。津波の浸水エリアは低減するが、家屋には向いていないとシミュレーション結果が出ている。そのため、新産業創出ゾーン・再生可能エネルギー・農業再生ゾーン等とする計画になっている。
- ・二地域居住ができるように復興 I Cの整備も要望している。また、二地域居住が可能であるならば、復興の様子を見ながら帰還の判断の材料にしていきたい。
- ・除染をしていない地域でも、自然減衰はしている。
- ・廃炉等についても、誰も経験したことがない。どのようなアクシデントが起こるもわからない部分があるが、廃炉の工程等の状況を判断しながら行ってほしい。

(男性)

- ・何年後に双葉町に帰還できるのか。数十年かかると思っている。長期ビジョンは難しいのではないかと。除染して 1 日も早く帰還できるようにしてほしい。
- ・イノシシの被害もあり、だいぶ荒れてきている。道路の草刈り等の対策をしてほしい。

(伊澤町長)

- ・帰還の判断は難しい。我々で判断できる材料がないということをご理解いただきたい。
- ・両竹・浜野地区においては、来年から本格除染を開始し、平成 28 年度に終了する予定になっている。

(猪狩産業建設課長)

- ・イノシシ駆除は平成 25 年度より環境省が実施し捕獲しているが、被害が拡大しており、今後の対応を検討し、同時に国へ要望も行っている。
- ・道路除草は、平成 25 年度より実施している。平成 26 年度は町内中心地で面積を広げて機械除草しているが、高線量地区については、除草剤を散布している。平成 27 年度は、竹や立木除去を予定している。

(女性)

- ・長期ビジョンについては納得できる部分もある。
- ・除染については、平地ばかり行って意味があるのか。山林から降りてきて意味をなさなくなるのではないかと。
- ・長期ビジョンに対する若い人の意見が知りたい。概要版を読んでも若い人の意見が入っていないように感じる。若い人が戻らないと町が成り立たない。

(伊澤町長)

- ・若い人が戻らないと町の復興ができないというのはその通りだと思う。復興推進委員会にも 40 代の委員も数名入っている。厳しい状況を自覚しながら、議論していただいた。
- ・厳しい状況だというのは、みんなが実感していると思う。しかし、今年行った住民意向調査では、帰還したい人・判断がつかない人の割合が増えており、少しではあるが町民の方の意識が変わってきている。

(駒田復興推進課長)

- ・住民意向調査の結果については、30代・40代で帰還しないと決めている人の割合が減少しているが、判断がつかない人の割合が増加しているため、長期ビジョン等の情報を皆さまに伝え、判断ができるようにしていきたい。
- ・20代の若者からも町の復興について話を聞きたいと照会も来ているので、復興推進課の職員を派遣して、町の取組などを説明して、復興を担っていく世代の意見を広く吸い上げていけるようにしていきたい。
- ・このビジョンを作る過程の中で、役場のチームを作り、30代から40代の職員を中心に議論している。

(男性)

- ・中間貯蔵施設に対する交付金は現在、国、県からどのくらい町に入っているのか。
- ・避難先に定住された方への支援を町としてどのように考えているのか。
- ・中間貯蔵施設の敷地以外の町民に対しての支援を、どのように考えているのか。

(伊澤町長)

- ・現在町に交付されているお金はない。交付金は中間貯蔵施設を受け入れる判断をした時に交付される。大熊町、双葉町については、3,010億円のうち、中間貯蔵施設に係る交付金として約850億円があるが、受入れ判断をしていないので、両町の配分は決まっていない。また、国には自由度の高さを求めているが、交付金の利用方法については、受入れた場合の検討になる。
- ・地権者以外の方への交付金の対応として、仮の話ではあるが、高速道路無料措置と医療費の免除については、1年ごとの延長になっている。いつまで継続されるのかも不透明であり、いつまでも続くものではない。また、一時帰宅の際の交通費への対応も検討していくことになると思う。

(半澤副町長)

- ・8月8日付けで復興庁、環境省から県及び双葉、大熊両町に対して交付金に関しての文書が出されている。
- ・交付金について、自由度の高いものにしてほしいということは県及び2町から要望している。

(男性)

- ・中間貯蔵施設を受け入れていないことはもう1回はっきり伝えてほしい。攻めと守りは、大胆にかつ慎重にお願いしたい。
- ・100年以上帰還できないと思っている。
- ・長期ビジョンは国・県に言われて作ったのか。町の判断で作ったのか。
- ・両竹、浜野では、太陽光発電ではなく、風力発電も検討すべきでないか。

(伊澤町長)

- ・風力発電に関しては、風力がどのくらいあるのかが課題となると思う。費用対効果を含めて可能性があるならば検討していきたい。
- ・双葉町復興推進委員会で議論して頂いている。国からの指示で作っているわけではない。町の判断で策定している。

(半澤副町長)

- ・今年5月1日に議会全員協議会で全町民向けの中間貯蔵施設の住民説明会を受け入れる表明はしている。24年11月には、福島県知事が現地調査の受入れを表明。それ以降、大熊、双葉両町で現地調査の受入れを表明している。

(男性)

- ・その話が中間貯蔵施設を受け入れたと勘違いされている。慎重な判断をお願いしたい。

(伊澤町長)

- ・説明に関しての受入れを判断したのであり、建設の受入れ判断はしていない。今後慎重に対応していきたいと思う。

(男性)

- ・復興公営住宅は1日でも早く整備をお願いして、仮設住宅から移行したい。
- ・私は双葉町に帰還する覚悟でいる。双葉町をなくすことはできない。

(伊澤町長)

- ・県には復興公営住宅の早期着工、早期完成を強く要望している。白河市については、白河市長・市議会の理解を得ることができた。
- ・白河市の旧種畜牧場跡地の復興公営住宅については、40戸のうち30戸が双葉町民向けである。土地の利用によって、住宅の形態は変わってくるが、集会所もできる予定である。
- ・条件が整った場所から建設を始めるようにも、県に要望している。
- ・私も帰還するつもりでいる。町を何とか残していきたい。

(男性)

- ・お墓を移動するつもりである。そのために通行証を1週間しか発行できずに、それも1日にしか入れないと言われた。どうにかならないのか。
- ・高齢者対策はどのようになっているのか。不慣れた生活環境はストレスになる。心の復興は大切なことであり、安らぎを得られる行政を展開していただきたいと思う。

(伊澤町長)

- ・高齢者対策については、全国各地に町民が避難しており、全ての町民に公平・公正に対応することがままならない状況である。そのような中双葉町にあった社会福祉法人の特別養護老人ホームがいわき市に建設予定である。施設規模としては50床と小さくなるが、その中で対応していきたい。それ以外にも社会福祉協議会の協力を得て行っているところである。

(半澤副町長)

- ・福祉、介護予防については、役場の事務所、支所が3カ所あることで、保健師等の職員が限られている状況にあり、県等の協力を得て行っている。
- ・浪江町から富岡町までの4町では、健康福祉担当課長会議を震災以降開催しており、4町連携して、まずはいわき市で健康サロンなどの介護予防事業を始めていき、今後こうした取組を広げていく考えである。

(松本住民生活課長)

- ・立入りの件については、別途個別に相談させていただきたい。

(男性)

- ・ゴミ処理の問題で帰還困難区域なので対応が難しいと言われている。しかし、一時帰宅して掃除してもネズミに散らかされてしまう。衛生的に良くないので、帰還困難区域であってもゴミ処理をできるようにしてほしい。
- ・イノシシの被害がひどい。広域で連携するなど駆除に力を入れてほしい。

(松本住民生活課長)

- ・帰還困難区域のゴミ処理については、環境省の方でもまだ決まっていない。
- ・町から環境省に要望していく。

(猪狩産業建設課長)

- ・イノシシ対策については、町から環境省に強く要望していく。

(女性)

- ・高齢者福祉については、いわき市内に施設ができるということだが、認定が高くないと受け入れもらえないケースがある。中通りにも施設を造っていただくよう要望したい。

(伊澤町長)

- ・各町村ともマンパワー不足の状況である。
- ・双葉郡8町村で連携して、お互いの住民を施設で受入れができるような方策を考えていきたい。

※町からの説明

(伊澤町長)

- ・いわき市錦町に町立学校が再開したが、小泉復興大臣政務官が訪問されたときに、子どもたちから「町の将来の復興のために働きたい」という発表があった。また、今月7日の梅檀祭(学習発表会)のときにも、そのような話があった。町としては大変喜ばしいことである。

(武内総括参事)

- ・町の財政について説明。

(平岩秘書広報課長)

- ・町からの情報提供方法(タブレット等)について説明。

以上